

# 月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた 教育史研究を求めて

第60号 2019年12月15日

編集・発行 『月刊ニューズレター 現代の大学問題を  
視野に入れた教育史研究を求めて』編集委員会  
(編集世話人 富岡勝・谷本宗生)

連絡先 大阪府東大阪市小若江3-4-1  
近畿大学教職教育部 富岡研究室  
e-mail: tomiokamasa@kindai.ac.jp

HP(最新号とバックナンバーを公開中)

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/komiyama/gen-dai-kyou-ken/>

コラム PDCAにどのように向き合うか	富岡 勝	2
逸話と世評で綴る女子教育史(60) — 聖公会と組合基督教会の女学校 —	神辺 靖光	6
称好塾『称好塾報』所収の「塾友記事」から — 金澤一郎等の進学動向 —	谷本 宗生	12
学校資料の教材化を模索して④ — 「奉安庫(奉安殿)」の教材化を事例に —	八田 友和	15
明治後期に興った女子の専門学校(15) 渋谷村常磐松への移転と『平民新聞』の攻撃	長本 裕子	20
カレッジノベルの研究への道(9) :久米正雄「競漕」(2)	吉野 剛弘	25
「未完の教授学者」としての長谷川乙彦② — 出生から高等師範学校卒業まで —	長谷川 鷹士	30
教育史研究のための大学アーカイブズガイド(22) — 女子美術大学歴史資料室 —	田中 智子	34
『久徴館同窓会雑誌』の会員通信	小宮山 道夫	39
体験的文献紹介(8) — 世界史の学習と新渡戸稲造研究 —	神辺 靖光	42
刊行要項(2015年6月15日現在)		47
短評・文献紹介		48
会員消息		50

## コラム

### PDCA にどのように向き合うか

とみおか まさる  
富岡 勝

(近畿大学)

## はじめに

毎年12月になると、私も一年間を振り返り、「次の一年の研究をどうしようか」と思いを巡らすことが多い。最近はニューズレターの研究交流会

は、そんなことを話し合う場としても機能している。

近頃、学習指導要領や大学教育関係で、振り返りと改善のサイクルとして、「PDCA」(Plan, Do, Check, ActまたはAction)という言葉聞くことが多くなってきた。ノートづくりをあれこれ試行錯誤しながら研究するのが好きな筆者にとって、PDCAは、完璧に実施できるかどうかはともかく、気構えのようなものとしては違和感をもっていなかった。

しかしPDCAの教育への応用については、様々な批判が登場している。それらを読んで、すこし考えを改めつつある。

## 学習指導要領や認証評価におけるPDCA

第51号までの4回にわたる連載記事でも紹介したように、筆者は大学で教職課程の授業を担当し、新学習指導要領の目玉である「カリキュラム・マネジメント」についても授業の中で紹介している。

PDCAは、この新学習指導要領関連で、例えば「教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること<sup>1</sup>」として紹介され、推奨されている。

大学教育関連では、とくに2004年度から制度化された七年ごとの認証評価において、PDCAは大きな影響力を発揮しつつある。

代表的な認証評価機関の一つである大学基準協会では、2011年度から

の第2期認証評価で「内部質保証」を強調するようになった。この「内部質保証」とは、大学がPDCAサイクル等の評価・改善システムを機能させて、教育の質向上をはかり、水準の高さを説明・証明していくことであり、認証評価のポイントであるとされた。認証評価の前に「内部質保証」が大きな話題になっていたのは、筆者の勤務先だけではなかったと思う。

2018年度からの第3期認証評価では、第2期以上にPDCA実施を重視すると大学基準協会事務局長・工藤潤は2017年1月の『大学時報』で宣言している<sup>2</sup>。

### PDCAの大学教育適用への批判

佐藤郁哉は、『大学改革の迷走』のなかでPDCAを次のように紹介しながら、「慎重な配慮が必要」であると述べる。

PDCAサイクルは、もともとは工場現場における品質管理・品質改善の手法として提案された日本発の発想」であり、2000年前後から行政改革の基本原理としても重視されるようになってきた。「もっとも広い意味でのPDCAサイクルは、ありきたりの日常的な心得とほとんど変わるところがないが、改革・改善サイクルという意味でのPDCAは「適用可能な対象や範囲が非常に限られており、大学現場への導入にあたっては慎重な配慮が必要」になるというのである<sup>3</sup>。つまり、PDCAはもともと品質管理の手法であるので、一般的な「振り返り」や「改善」とは異なる面があるというのである。

また古川雄嗣は、PDCAサイクルの教育への適用について、例えば「全体の目標がトップダウンで与えられることにより、部分（個人、部門）の自律的な目標管理がなしえない」という問題があることを指摘している。つまり、「点検・評価」によって「目標」そのものを更新してこそ、はじめてサイクルは、PDCA→P'DCA→P''DCA……というかたちで「スパイラルを描く」ことが可能となるのだが、そうはなっていないというのである<sup>4</sup>。

つまり、今日の多くのPDCAサイクルでは、P（目標）がトップダウンの所与

として改変不可能なものとして与えられてしまい、C(点検)とA(改善)は、P(目標)ではなく、D(計画・実行)に向けられることになってしまうのではないかと、という指摘である。

もし古川の指摘の通りであるなら、PDCAサイクルでは、教育活動のなかでの学生が実際に経験したことや考えたことがP(目標)の改善には活かされないことが多いということになる。つまり、あらかじめ設定された目標(それも質的な目標ではなく数値目標であるかもしれない)を効率的に達成するためにのみ、C(点検)とA(改善)が使われるということが多いということになる。授業評価アンケートの項目でも、カリキュラムのP(目標)自体を問う設問が設けられることはほとんどないだろう。

そうした場合は、大学がPDCAサイクルを熱心に回しても、大学教育の主人公であるはずの学生は、サービスの利用者のままということになってしまうかもしれない。

## PDCAとの付き合い

PDCAという言葉は、一般的な心得としてなんとなく良さそうに聞こえることもあって、使う人によって多様な使われ方をしているようだ。

中学校や高校によっては、生徒と直接向き合う教師たちが教育活動の実際の成果と課題についてきちんと話し合いながら、カリキュラム改善に活かしている学校もあるようだ<sup>5</sup>。しかし、そうした学校は、PDCAの例外的な活用例である可能性がある。

重要なのは、学生・生徒と教員の具体的な関わりを、管理職ではなく、学生・生徒と直接向き合う教師たちがきちんと話し合い、教育活動の目標や計画にボトムアップで活かしていくということであろう。

もし本当に教育・研究を質的に改善するための大学改革を求めるのであれば、『PDCAサイクルの枠をはみだす』さまざまな具体的現実とその意義

をこそ、『合理的・論理的に正当化し、説明する』こと」が必要であると古川は述べている<sup>6</sup>。なるほど、と思った。

---

1. 「学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策」(中央教育審議会・初等中等教育分科会(第100回)配布資料)

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1364306.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1364306.htm)

2. 工藤潤「第3期認証評価における大学評価について 一大学基準協会が目指す内部質保証一」『大学時報』日本私立大学連盟、第372号、2017年1月、99頁。

3. 佐藤郁哉『大学改革の迷走』(ちくま新書)、2019年、87頁。

4. 古川雄嗣「PDCAサイクルは『合理的』であるか」(『反大学改革論 若手からの問題提起』、ナカニシヤ出版、2017年、所収)、16-17頁。

5. たとえば、杉浦健・奥田雅史「そもそもカリキュラムマネジメントとは? 一美原中学校におけるカリキュラムマネジメントから考える一」(『近畿大学教育論叢』第29巻第2号、2017年)を参照。

6. 古川前掲書、20頁。

**\*このコラムでは読者の方からの投稿もお待ちしています。**

## 逸話と世評で綴る女子教育史(60)

### — 聖公会と組合基督教会の女学校 —

かんべ やすみつ  
神辺 靖光(ニューズレター同人)

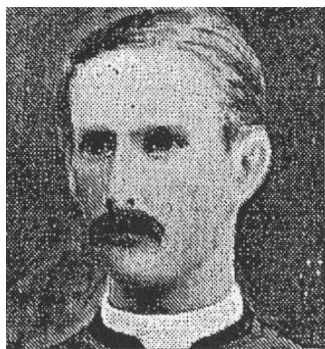
日本聖公会は明治20年、大阪三一教会で、米国プロテスタント監督教会 Protestant Episcopal Church in the U.S.A と英国教会伝道協会 The Church Missinary Society (略称CMS) と英国福音伝道教会 Society for the Propagation of the Gospel (略称SPG)の三教派が合同したものである。米国プロテスタント監督教会(米国聖公会)がはじめた立教女学校のことは本シリーズ(40~42号)に書いたので、その他の女学校のことを書こう。

#### 大阪の照暗女学校から京都の平安女学校へ

明治2年、米国監督教会のウィリアムスが大阪川口の居留地で数人の青年を集めて英語を教えた。そのうちに数名の女生徒も一緒に学ぶようになった。明治6年、ウィリアムスは転任の命を受け、数人の青年を連れて東京に移った。後に立教大学になる学校に青年たちを入学させるためであった。明治7年、監督教会から派遣されたエディ E.G.Eddy が大阪に来た。エディは残された女生徒を引き受けて教えた。はじめは、“エディの女学校”と呼んだが、明治8年、照暗女学校と称するようになった。“照暗”とはヨハネ福音書の「人を照すまことの光」「光は暗の中に輝いて、暗はこれに打ち勝てなかった」の句による。照暗女学校は明治25年まで続いた。この年、このミ

ツシヨンは京都に新しい女学校をたてることになり、照暗女学校を京都に移した。しかし、生徒達がこれを拒んだので生徒は全員東京の立教女学校に移した。(本シリーズ41参照)。明治27年、京都の照暗女学校は平安女学校と改称し、後年に続いた。現平安女学院中学校高等学校。(『平安女学校85年史』、『全国学校沿革史』)

プール女学校 明治12年、英国教会伝道協会CMSの女性宣教師オックスラッド M.Oxladが大阪川口の居留地で永生女学校をはじめた。明治22年、川口町十二番屋敷に校舎を新築しプール女学校と校名を改めた。プールの由来は明治18年、英国教会から最初に派遣されたCMS日本監督アーサー・ウィリアム・プールの名誉をたたえて集めら



A. プール

れた資金で校舎が建てられたからである。プールは明治18年、33歳の若さで亡くなっている。大阪市生野区にある現プール学院中学校高等学校である。

香蘭女学校 英国福音伝道協会SPGの日本監督として来日したピカステス主教 E.Bickersteth は聖ヒルダの伝道会 St.Hilda's Missionを設立した。この聖ヒルダ伝道会がはじめたのが香蘭女学校である。ピカステスは明治20年、聖アンデレ教会の司祭・今井寿道に依嘱して学校設立を東京府に出願させた。同年認可、麻



E.ピカステス

布永坂町の島津伯爵家から敷地を借り翌21年、校舎を新築して開校した。校主の今井寿道は東京府士族、明治16年から芝区栄町の聖アンデレ教会に属し布教に従事していた。ヒルダ伝道会は英国の貴婦人団体で組織されていた。香蘭女学校の女性教師はみなこの団体から派遣されていた。大正元年以降、ヒルダ伝道会から分離され、日本聖公会南東京地方部に所属した。現品川区にある香蘭女学校中学校高等学校である。（『香蘭女学校七十年の歩み』、『日本聖公会百年史』『都史紀要9東京の女子教育』）

組合基督教会はアメリカンボードミッション American Board of Commissioners for Foreign Missions と熊本バンド、同志社の三つが合体したものである。

明治2年からアメリカンボードのグリーン D.C.Green が神戸を中心に京阪地方を伝道し、神戸に基督公会を起して仮牧師になった。一方、熊本藩は明治4年、熊本洋学校を開き、米国砲兵大尉ジェンス L.L.Janes を校長に招聘した。ジェンスは生徒の有志に聖



書を教えた。明治9年1月、生徒有志35名は熊本郊外の花岡山に集り誓約した。この中に海老名弾正、横井時雄、浮田和民、徳富猪一郎ら後に活躍する青年達がいた。これらのグループを熊本バンドという。この事件は父兄の間に一大衝撃を与え、猛烈な反対がおこった。ために熊本洋学校は9年夏、閉鎖され、熊本バンドの青年30名は同志社に移った。同志社はこれらの青年を受け入れ、京都・神戸の受洗者を合わせ、新島襄を仮牧師とする京都第二公会をつくり、さらにこれを母胎として京都、大阪、神戸、三田の公会からなる日本基督伝道会社を明治11年に成立させた。以後、上州安中、備前岡山、伊予今治に教勢を拡張し、19年、同系統の諸教会を連合して日本組合基督教会を成立させたのである。(比屋根安定『日本基督教史』『明治文化史6 宗教編』中の『明治基督教史』)。

日本組合基督教会はアメリカンボードの宣教師の援助を受け協力するが他の教派のように外国人の指示や指導を受けることが少ない。日本人独自の判断で行動することが多い。この教派による神戸英和女学校、同志社女学校の活動については本シリーズ(43～46)で述べたので、その他の女学校について述べよう。

梅花女学校 この学校は明治11年、  
沢山保羅が創立したものである。沢山保羅は元長州藩士、幕末の長州戦争では戦場で戦った。明治初年、神戸でアメリカンボードの宣教師グリーンに出会い、彼の紹介でイリノイ州ノースウェスタン大学で学



創立者 沢山 保羅

び、明治6年、エバンストン第一組合教会で洗礼を受けてクリスチャンになった。彼は名を聖徒パウロからとって“保羅”と改め、日本伝道を誓った。明治9年帰国、10年1月、大阪に浪華教会を創立し、その牧師になった。

沢山は日本の後進性を痛感していたが、これを改善するにはまず女子教育を振興する外ないとし、同志らとはかつて浪華教会の会合において女学校設立を決議した。明治11年1月、大阪土佐堀裏町の民家を借り受け、その二階裏を修理して梅花女学校は開校した。集った生徒はわずか15名であった。因みに梅華の名称は大阪府下の2つの教会、梅本教会と浪花教会から一字ずつ取って命名したものである。沢山は一般から寄附を集めない方針だったので経営が苦しく何度も廃校の危機にさらされた。だがこれを献身的に支えたのが後に日本女子大学校をつくる成瀬仁蔵であった。学校の会計事務から小使の仕事まで成瀬は一人でこなしたと言われる。沢山は明治20年、35歳で肺結核でなくなったが、成瀬ら後継者によって後年に続いた。現梅花学園中学高等学校である(『梅花学園九十年小史』平塚益徳『人物を中心とした女子教育史』)。

松山女学校 明治19年9月、伊予松山に二宮邦次郎を校長とする松山女学校が開校した。二宮は組合基督教会の青年牧師で、前年の18年、松山基督教会を創立したばかりであった。二宮は新大陸にアメリカ合衆国を建国した清教徒の逸話に



創立者 二宮 邦次郎

感激し、伊予に女学校がないことから松山女学校をたてたのである。教師には組合教会系の神戸女学院の卒業生や同志社の学生が参加した。開校当時は松山教会前の借家を教場としたが、20年、県立松山中学校跡に移転した。明治22年にはアメリカンボードの宣教師ミス・ガニソンが、23年にはミス・ジャジソンが教鞭をとった。ガニソンは米国で約1,000円の資金を集めてきたので、これに日本人の寄付金を加え、23年、500坪の土地を買い校舎を新築した。明治34年、二宮は組合教会の巡回伝道師となって松山を去った。以後、数年間、二宮が名義上の校長になっていたが、39年、アメリカンボードの婦人伝道会社にすべてを移管した。二代目校長にはジャジソンが就任し後年に続いた。現松山東雲中学校高等学校である。（『松山東雲学園創立70周年記念沿革史』）。

## 称好塾『称好塾報』所収の「塾友記事」から

### — 金澤一郎等の進学動向 —

たにもと

むねお

谷本

宗生(大東文化大学)

『ニューズレター』第48号(2018年12月)所収の「短評・文献紹介」欄でも取り上げたことのある称好塾の『称好塾報』には、所属する塾友らの消息動向などを記してある「塾友記事」が毎号掲載されていて、とても興味深いといえよう。

たとえば、『称好塾報』(1897年12月)所収の「塾友記事」(一部抜粋)には、次のとおり記されている(5~6頁)。

○士官候補生試験合格者 曩に中島徳大寺二君が成功以来常に後継の踵かざるを嘆せしに本年の候補生試験に於て横江捨三、伊勢田浄二君のみ合格の榮を得られたり多年勉学の苦空しからず終に宿志を貫徹せられたるは畜に二君の幸のみにあらず亦実に称好塾の幸なり二君たるもの冀くは奮勉軍人社会の木鐸を以て任するに至らんことを因に云ふ横江君は歩兵科候補生として来る十二月一日より大津第九連隊に入営せらるべく伊勢田君は輜重兵科候補生として第一師団輜重兵大隊に入営せらるへし

○高等学校試験合格者 第一第三両高等学校に向ひて戦ひしもの数名ありしも唯た独り岩田正雄君が合格して第三高等学校一部に入学せられたるのみにて他は不幸にして成績思はしからざりしは頗る遺憾とす内に就て上田一次君は第一高等学校特別試験に合格なりしも不幸にして独逸語試験

に失敗せられしを以て入学の場合には至らず明年更に独逸語の試験のみを受けらるる心算なりと云ふ

○佐竹時之助君 は錦城学校卒業の後同校研究科にありて修学に怠らず本年七月高等商業学校入学試験に応じて志を得ず終に本年九月金沢第四高等学校へ転じ同校法科に入学せられたり

○金澤一郎君 も亦た佐竹君と共に高等商業学校の戦に敗を取られしが既に滋賀県商業学校及び商工中学校を卒業したる事なれば今後外国語を専攻し大に貿易上に為すあらんとの志望を以て本年十月を以て創立せられたる外国語学校に入り現に西班牙語を研究せらる

またたとえば、『称好塾報』(1900年8月)所収の「塾友記事」(一部抜粋)には、次のとおり記されている(11頁)。

○各中学卒業諸友 内塾友楠正一、池善一、浅田暢一の三君及外塾友中島誠君は日本中学を、大和孫作、田中一幸の両君は郁文館を菊池啓麿君は高等師範附属中学を、佑倉了八君は独乙協会を何れも去三月卒業中島君は第四高等学校医学部に菊池君は高等商業学校に他六君は高等学校に進入の志望にて応戦せられしに中島、楠、池の三君は芽出度功を奏せられたり

○上田駿一郎君 十余年塾内に在りて尽瘁せられし君は今回東京大学仏蘭西文科を卒業せられたり

○金澤一郎君 は今回外国語学校西班牙語科を卒業せられたり

上級学校への受験や進学、就職や転身などが簡潔明瞭に記されている。たとえば、同上に挙げられてある金澤一郎は、当初は高等商業学校への入学を祈願していたが、受験で不合格となり、「今後外国語を専攻し大に貿易上に為」そうという目標から、新たに設立された外国語学校の西班牙語科に入学し卒業を果たしている。金澤一郎は、東京外国語学校西班牙語科の第一期生となり、外務省や東洋汽船会社勤務の経歴を有し、母校の教壇に立って主任教授までつとめる人物であった。

## 学校資料の教材化を模索して④

### －「奉安庫(奉安殿)」の教材化を事例に－

はった ともかず  
八田 友和(クラーク記念国際高等学校)

#### 1、はじめに

2018(平成 30)年に文部科学省が告示した『高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説(以下、『新指導要領—地歴編—』)』の日本史研究において、「戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開」については、“我が国で全体主義的な国家体制が進展し、国民生活への統制が強まったことなどを多面的・多角的に考察する学習”の重要性が示された。<sup>1)</sup>

それを受け本稿では、“奉安庫(奉安殿)”を事例に、我が国において全体主義的な国家体制が進展した様子を読み解く学習活動を提案したい。

#### 2、奉安庫(奉安殿)の教材化

奉安庫とは、「御真影の「奉護」(護り奉る)ための格納庫及びその建物」と定義できる<sup>2)</sup>。加えて、1930 年代になると、「神社形様式の奉安庫(奉安殿)」(以下、奉安庫・奉安殿を総称して奉安殿と表記する)が各地の小学校に設置されるようになり、各小学校に下賜された天皇皇后両陛下の写真(御真影)を奉安殿に安置し、毎月1日以上、御真影奉拝を行うことが義務付けられていた<sup>3)</sup>。この奉安殿の設置は、御真影神格化への過程でもあり、天皇制公教育の具現化シンボルとして教育勅語とともに戦前・戦中教育に多大なる影響を与えたといえる。

奉安殿を教材化する方法として、奉安殿の使われ方や奉安殿に対する当時の人のとらえ方が如実に表れた資料を複数用意し、奉

安殿と御真影が当時の学校教育や社会に与えた役割を考察させる学習活動を組み込むことが想定される。奉安庫の教材化を行う際、教育基本法第 14 条及び 15 条に配慮したことにも留意したい。

導入：集合写真を複数枚提示し、共通点をあげさせる。

- ・学校で撮影したもの
- ・後ろに建物が写っている。



(出典)左の写真は、『ふるさとの小学校』p.19、右の写真は p30より引用

発問①：(この建物が当時、全国の小学校に設置されたことを説明し)この建物の中には何が入っているだろう。

- ・頑丈そうな建物だから、お宝。
- ・学校のもっている大切なもの。

展開① 安置されていた物として、御真影と教育勅語を提示する。

加えて、タブレットなどの ICT 機器で御真影と教育勅語を調べさせる。

- ・御真影とは、天皇皇后両陛下の写真を指す
- ・教育勅語とは、近代日本の教育方針として発布され



た、天皇の勅語。

- 中心発問「なぜ、各小学校に奉安殿（御真影・教育勅語）が安置されたのだろう」

展開②（答えに代えて、学習活動を行い、予想を立てさせる）  
奉安殿と御真影の使われ方・扱われ方について、資料から読み解く。

資料1 「御真影奉安ニ関スル注意事項」

- |               |        |
|---------------|--------|
| 御真影奉安ニ関スル注意事項 | 文部当局注意 |
|---------------|--------|
- 一、奉安所ノ痛風換気ニ不断ノ注意ヲ怠ラザルコト。  
換気孔ハ成ル可ク上下ニ之ヲ設ケ且各孔ハ相当ノ大キサヲ保タシムルヲ要ス。
  - 一、現在ノ奉安所ニシテ湿気多キモノハ速時改造ノコト。  
改造困難ナル場合又ハ改造ノ必要ヲ認メザルモ湿気多キ傾向アル場合ハ天気晴朗ナル日ヲ選ビテ奉安所ノ扉ヲ開放シ乾燥セル空気ヲ通スコトニ努ムベシ。
  - 一、定日奉拝モ当日天気不良ナル場合ハ天候回復迄之ヲ延期シ、成ル可ク空気湿潤ノ日ニ於イテハ奉安所ノ開扉ヲサクベシ。
  - 一、御真影ハ一葉毎ニ硫酸紙ノ袋ニ入レタル上両陛下ノ御真影ヲ重ネテ檀紙ニテ包ミ更ニ其ノ上ヲ糊気ナキ白木綿ニテ包ミテ桐箱ニ納メ奉安ノコト。
  - 一、二葉ノ御写真ヲ重ヌル際ハ  
天皇陛下ノ御写真ヲ上ニシ且御写真ノ印画面ヲ向合ハセニ置カザル様注意スベシ、御写真ハ成ルベク平ニ奉安シ立テカケ置カザルヲ宜シトス。  
(中略)
  - 一、奉安用桐箱ニハ相当量ノ防虫剤ヲ紙又ハ布ニテ包ミテ入レ置クコト、尚防虫剤ハ約半年毎ニ異種ノモノト交換スルヲ要ス。

(中略)

一、奉拝ノ際ハ必ズ手套ヲ用ヒ台紙ヲ汚損スルコトナク様注意ノコト。

(出典)『ふるさとの小学校』p30 より引用

まとめ:

奉安殿の設置により、御真影が神格化され、天皇制公教育の具現化シンボルとして教育勅語とともに戦前・戦中における全体主義的な国家体制の進展に影響を与えた。

### 3. 考察

本研究の成果として、次の二点が挙げられる。

第一に、当時全国的に設置された奉安殿に着目することで、全体主義的な国家体制の進展を微視的視点から確認できた点である。奉安殿の設置は、天皇制公教育の具現化シンボルとしての機能を意識したものであり、その使われ方や扱われ方から、当時の人々がどのように天皇や社会情勢を見ていたのかを読み解くことができる。

第二に、学習者に対し複数の資料を提示することで、資料を関連させながら予想を立てさせることができる点である。本授業モデルでは、「奉安殿・教育勅語・御真影」のほか、「御真影奉拝簿・御真影奉安二関スル注意事項」をはじめとした資料を提示しており、学習者が複数の資料を比較・関連させながら予想を立てることが可能となろう。

### 4. さいごに

本研究では、奉安殿を事例に教材化の模索を行ってきた。具体的には、奉安殿の使われ方や扱われ方に着目し、「奉安殿の設置に

より、御真影が神格化され、天皇制公教育の具現化シンボルとして教育勅語とともに戦前・戦中における全体主義的な国家体制の進展に影響を与えた<sup>4)</sup>という当時の社会情勢の理解を目指す学習活動を提案した。

今後の展望としては、学校日誌や児童・生徒の日記における、奉安殿に関する記述から、当時の人々が奉安殿に向けたまなざしについて明らかにし、本授業モデルに組み込んでいきたいと考えている。

### 【註】

- 1) 『高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説—地理歴史編—』p.255 より引用
- 2) 和崎光太郎『図録 近代日本の道徳教育』p.43 を参考に定義を行った。
- 3) 太子町立歴史資料館『ふるさとの小学校』p.30 より引用
- 4) 小野雅章『教育学研究 57(4)』p.10 を参照

### 【参考文献】

- ・小野雅章 1990「御真影・奉安殿の戦後「改革」」『教育学研究 57(4)』pp.330-338 日本教育学会
- ・村野正景・和崎光太郎(編)2019『みんなで活かせる!学校資料』京都市学校歴史博物館
- ・和崎光太郎 2018『図録 近代日本の道徳教育』京都市学校歴史博物館
- ・太子町立歴史資料館(編)2019『ふるさとの小学校』太子町立歴史資料館
- ・南丹市立文化博物館(編)2015『学校のあゆみ 園部地区編』南丹市立文化博物館
- ・文部科学省 2019『高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説—地理歴史編—』東洋館出版社

## 明治後期に興った女子の専門学校(15)

### 渋谷村常磐松への移転と『平民新聞』の攻撃

ながもと ゆうこ  
長本 裕子(ニューズレター同人)

明治34年3月、女子工芸学校が最初の卒業生8名を世に送り出した。翌35年3月に実践女学校が第1回卒業式を行い、18名を送り出した。全国から入学を希望してくる者も増え、寄宿舎の増設が必要となった。



明治36年、常磐松校舎

35年秋、元園町の仮校舎が生徒を収容しきれなくなっていたところに、暴風雨で校舎が大破した。そのため豊多摩郡渋谷村の常磐松(現在の渋谷区東1丁目1番地)に移転を決めた。ここは、元皇室御料の乳牛飼育場で、宮内省常磐松御料地付近一帯であった。この土地の2千坪(6,480㎡)を10ケ年借り受けることを願い出た。交通もまだ不十分で、18年に日本鉄道が赤羽・品川間を開通した時、中間駅の一つとして渋谷停車場があったにすぎなかった。昼間でも人声を聞くことはまれな所とはいえ、広大な御料地を1ケ年20円というただ同然で借りることができたのである。これは華族女学

校学監であり、天皇皇后両陛下の信任を得、内親王御用掛でもあり、宮中に絶大な勢力を持つ下田歌子だからこそであったろう。

36年5月7日、常磐松の木造2階建て新校舎開校式が挙行された。実践女学校の総生徒数は、36年度184名、移転直後の37年度は180名とわずかに減少した。しかし、38年度からは259名と急激に増加し、40年度には330名になった。一方、女子工芸学校の総生徒数は、36年度223名、移転直後の37年度も242名と増えたが、38年度217名、39年度188名と減少した。しかし、清国留学生部を開設するなど、実践女学校と女子工芸学校の経営はほぼ順調であった。

ところが、40年11月、22年間上流階級の子女教育に携わってきた歌子が、年度の途中で学習院女学部長の職を解かれることになる。最も高額を稼ぐ女性として衆目を集めていた歌子が、一転して誹謗中傷の的となり、最上段から引きずり降ろされた。

明治39年2月15日、新聞『日本』に、

目下日本で一番多く月給をとる婦人というのは、華族女学校学監たる下田歌子女史で、其年俸が二千四百円、周宮、常宮両殿下の御養育費及び御歌所参候で二千元、其外人名辞書に著述家と記された通り諸種 of 原稿料が年に六百円位はあるので、総計五千元あるとの事とある。第2位が音楽家幸田延子で、2,200～2,300円くらいという。1円出せば1軒家が借りられた時代に、年間の総収入が5,000円と、第2位を大きく離してトップである。

転落の直接原因となったのは、明治40年2月23日、日刊『平民新聞』第33号「妖婦下田歌子」の連載予告から、同年4月13日第75号の最終回までの記事である。『妖婦 下田歌子「平民新聞」より』から一部を引用しよう。

目白花柳大学の生徒は「誰れでも下田歌子さんを理想せぬ者がありませんか正当の夫はなくても勝手気儘に男を情郎いひとに作ることも出来るし、くだらぬ家政などに心配せず、毎日ラヴばかりして面白おかしく暮らせるではありませんか」と、本郷切通しの大忠君愛国家西沢之助が経営する日本女学校の生徒は「私の理想は宮内省に這入りたい許りです。宮内省に這入れば私の位地も進んで行きます。私の大きな欲望は満足されるのです、私の心を代表しておるものはアノ下田歌子さんです。私はドウか下田さんのような者になりたいのです」と(後略)

女学生の言葉を借りて、歌子を「色を漁する御祖師様」「欲を飽かすための理想的名婦」と皮肉る。さらに、学習院女学部の生徒は、歌子の倫理の授業は教場に入らなかったり、教場に入っても小説本を読んだり、雑談したりして時を過ごす者が多く、さすがの歌子も困っていると続く。平民新聞がなぜこれほどまでに歌子を攻撃したのか。まず『平民新聞』について述べよう。

日刊『平民新聞』は、明治40年1月15日に第1号を発行した。発行兼編集人は石川三四郎、印刷人は深尾韶。36年11月、『万朝報』

の記者であった幸徳秋水と堺利彦が、社主の黒岩涙香と対立して退社し、週刊『平民新聞』を創刊した。非戦と社会主義を唱えたが、日露戦争勃発後、出兵と増税に反対したため官憲に目をつけられ、日露戦争後、勝利に酔う民衆にも背かれ、2年たらずで廃刊となった。秋水は一時渡米。国法の枠内で結社の自由を認める方針を発表した西園寺内閣の出現で、39年2月、堺と深尾は「日本社会党」を結成した。同年6月に秋水が帰国し、翌40年1月15日、日刊『平民新聞』がスタートする。

しかし、同年2月5日、秋水が『平民新聞』に発表した「社会主義の目的を達するには、一に団結せる労働者の直接に依るの外はない」という主張と、足尾銅山の暴動(2月4～7日)とがたまたま一致したことから、発行停止処分が相次ぎ、経営がいきづまった。平民新聞社は、創刊号の「売らんが為に発行する者に非ず」という宣言を翻して、「読まれる記事」「売れる記事」にせざるを得なかった。かつて『万朝報』がとった過激な醜聞暴露で発行部数を伸ばすという手法をとらざるを得なかったのである。

歌子は39年4月、廃止となった華族女学校に代わって、学習院に統合された学習院女学部長に就任した。同年12月、正4位に叙された。実践女学校と女子工芸学校の校長であり、民間女性として最高の地位を謳歌していた。その歌子をターゲットにしたのである。

日刊『平民新聞』は、これでかなりの部数を伸ばしたとみられる。しかし、結局、「妖婦下田歌子」の連載は41回にとどまり、第75号で廃刊となる。どこからか圧力がかったのだろう。『平民新聞』の廃刊、連載の中断を告げる最終回は「下田歌子を葬る」という題で、

「仮令え本紙廃刊するも吾人は多くの平民の女を賊しつつある虚栄心の権化、下田歌子に文字の爆裂弾を投じて彼女を精神的に虐殺するの志更えざるべし。」という過激な言葉で結ばれている。しかも未掲載30回分のネタが列挙された。その中には、宮内省の官吏を買収して、華族女学校を廃校にし、十数年来ともに歩んできた20名の同僚を解雇したというものがあつた。

事実とはかなりかけ離れた情報や見解によるものであろうが、単に経営上のターゲットというだけではない。その背景に何があつたのであろうか。

#### 参考文献

『妖婦 下田歌子「平民新聞」より』山本博雄解説

『実践女子学園八十年史』

『下田歌子先生伝』故下田校長先生伝記編纂所 編集・発行



## カレッジノベルの研究への道(9)

### : 久米正雄「競漕」(2)

よしの 吉野      たけひろ 剛弘 (埼玉学園大学)

今号は、前号でその概要を示した久米正雄「競漕」について、今一つ掘り下げることにする。

小説の中の記述を精査すると、練習期間は3月から4月にかけて、競技会は4月のことのようにある。久野が合宿に参加する条件として3月15日か16日からでないと参加できないと提示したこと、久野が練習に参加したのが正味20日程度だったことから、そのように考えることができる。ただし、この小説が実話をもとにしていることを勘案すれば、事実と照合してみる必要もあるだろう。

主人公の久野は、文科大学の学生でありながら作家として活躍しており、競技への参加を窪田らから依頼された際に、戯曲の執筆があるからと渋っている。最終的には執筆を終えた上で参加することを決めるのだが、合宿に参加するまでに書きあげることができなつたようで、皆が寝静まった後の合宿所で執筆する様子が描写されている。

久野が依頼を受ける前に、津島という学生にも声がかかっている。その津島は、卒業論文の執筆が忙しい上に、4月には故郷に帰って結婚することになっているために断っている。

合宿所は言問の鳥金という料理屋の裏にあることになっており、学生たちは隅田川で練習をしている。現在ならば荒川沿いの戸田で合宿をするところだろうが、当時の状況からすれば当然の場面設

定である。

しかし、大学にほど近い場所に合宿を張っているにもかかわらず、彼らが練習期間に授業に出席した形跡は全くない。ボートの練習は午前中から夕方まで続けているようなので、叙述として授業の風景がないということではなく、本当に出席していないようである。当時の『東京帝国大学一覽』によれば、第2学期は3月31日までで、春期休業は4月1日から7日となっており、第3学期は4月8日に始まることになっている。合宿の期間は、授業期間と重なっているのである。

しかも、チームへの参加を断った津島は卒業論文を書いているというが、4月には故郷に帰って結婚をすともいう。結婚はあくまで個人の自由であるが、それを理由に参加を断るということは、結婚に関わってさまざまな拘束がかかるからからであろう。当然のことながら、その期間に大学に通うことはない。というより、4月は授業期間なのだから、わざわざその時期に結婚をしなくてもよい。

卒業目の学生なのだから、それ相応に授業は少ないだろうが、今の大学と異なり、選択の余地が少ないので、最終学年だからといって授業が全くないとは考えづらい。東京帝国大学文科大学に通った経験を持つ久米正雄にとって、授業に行かない学生というのは、さして違和感を抱かせるものではなかったということである。

この小説では、農科大学のチームがとても強いということになっている。合宿中も他の分科大学の状況を偵察する様子も描かれているが、法科、工科、医科は登場するが、理科は登場しない。理科大学だけが出場していない可能性は高くないように思われるが、これも事実との照合が必要であろう。

むしろ、ここで理科大学だけが出てこないという事実は、一人の文科大学の学生の目から見た分科大学観を示していると見た方がよいのかもしれない。分科大学対抗レースについて書くというのだから、理科大学だけ出さないのはむしろ不自然である。つまり、理科大学は視野に入っていないとみるべきではないか。

実際問題として当時の理科大学の存在感がどの程度あったのかという点、理科大学だけボート競技には参加していなかった可能性を検討する必要があるが、ボート競技における存在感に一定の意味があるというならば、当時の学生は勉学など二の次だったともいえる。学校でスポーツにのみ邁進する学生が、世間一般の学校序列にあまり関心を示さないのと同じである。

作品の中では、当然のことながら久野らの会話が描写される。以下に示すのは、合宿と競技に参加してもらうための久野と窪田との交渉の様子を描写したものである。

「だしぬけに妙なことを持ち込んだものだね。しかし僕を引っ張り出さなくたって、ほかにまだあるだろう。僕なんぞだめだよ」

「ところがほかにないから君ん所へ来たんだ。今もこの津島君のところへ行ったら、論文と結婚で忙しくていけないと言うんだ。それで二人で君しかないと決議して、わざわざ勧誘に来たんだ。どうか頼むから出てくれたまえ」

「僕だって脚本を書いてるんで忙しいんだ。帝文の川田敏郎に今月はぜひ出すって約束してしまったんだからね」

「なあに、君のは一生の大事と言うほどのことではあるまいじゃないか」

「ところが今の僕にとっちゃ少なくとも妻君をもらうより大問題だからね」と久野は黙って笑ってる津島のほうへ顔を向けた。ちょっと面を赤めた津島はこの時はじめて口を切った。

「そんなことを言わないで、どうか出てください。窪田君もこのとおり困り抜いてるんですから。メンバアがそろわなくちゃ他の人も練習に身がはいらないんです。それになんでしょう。競漕なんてものは一度はやって見るとおもしろいものですよ。合宿生活なんでも学生のうちでなければ、とうてい味わうことができない経験ですからね。あなただってやってけっして損なことはありません。きっと請合います」

現代の感覚からすると、およそ友人同士の会話とも思えない、妙なよそよそしさが漂っている。友人に向かって「〇〇してくれたまえ」などという口の利き方も、同級生同士で「どうか〇〇してください」という頼み方も、違和感が残る。現代の状況にひきつけるのであれば、何かのプロジェクトへの加入を交渉している会社員同士の会話という方が似つかわしい。それでも「〇〇してくれ給え」などとは言わないだろうが。

しかし、それが当時の学生というものなのだろう。前号でも触れたように、この小説は夏目漱石をして「競漕はあれ以上行けないのです。またあれ以上行く必要がないのです」と言わしめたのである。その夏目は、高等学校の生徒が進学する帝国大学の教員だったので

ある。

そのような事実をふまえると、エリートであることが事実上担保され、しかも男子しか入ることのできない帝国大学の学生と、ユニヴァーサル段階に到達した現代の大学生とは、ハビトゥスが異なると結論付けるしかない。一方で、他の小説ではどうなのかという疑問も生じる。久米正雄以外の作品を検討することが必要だが、まずは久米の筆致を確認する意味も込めて、次号からは同じく久米の手による「受験生の手記」を取り上げることにしたい。

## 「未完の教授学者」としての長谷川乙彦②

### — 出生から高等師範学校卒業まで —

はせがわ ようじ  
長谷川 鷹士(早稲田大学)

長谷川乙彦は 1870 年 10 月に尾張国(愛知県)名古屋に士族長谷川政晃の次男として生まれた(1)。廃藩置県はまだなされておらず、江戸時代の雰囲気をもとに、成長していったと考えられる。とはいえ、出生後 1 年たたずに廃藩置県が断行され、そのまた約 1 年後には学制が公布され、「学問ハ身ヲ立ルノ財本」という近代的な教育が制度上は導入されることとなった。長谷川は「四民平等」によって失うことになった士族としての地位を、そうした近代的教育を受けることによって、からくも継承していった。つまり属性原理が通じない、業績原理の社会への変化に対して士族としての属性「資本」を学歴という業績「資本」に転換して、その地位を「再生産」したのである(2)。長谷川は 1938 年に青山師範学校の校長を退いたのちに旭日中綬章を授与されている。位階勲位は正四位勲三等であった(3)。士族としての威信は十分に「再生産」できたといえるだろう。

長谷川の近代学校経験は社会構造との関わりで見れば、以上のような属性「資本」の業績「資本」への転換による「再生産」と理解できるであろうが、長谷川の思想形成との関わりで見れば、その理解のみでは充分ではない。長谷川の「教授学」を分析する本稿の立場からすれば、当然ながら、思想形成への影響をこそ、問わなくてはなるまい。それにもかかわらず以上のように社会構造との関わりで

の長谷川の近代学校経験の意味を述べたのは、それが思想形成にも影響を及ぼしていると考えられるためである。この点についてはのちの検討の中で触れる。以下、第3回に分析する初期論文「個性と教育」の元論文を執筆した高等師範学校卒業(1895)までの長谷川の学校経験を簡潔に述べる。特に長谷川自身の回顧を参考にして、小学校時代の経験が長谷川の思想形成に与えた影響を検討する。

長谷川が何年に小学校に入学したのか、正確には判明しない。ただ、愛知県尋常師範学校を卒業したのは1891年なので(4)、小学校に在学していたのは1870年代後半から1880年代半ばごろのどこかの時期と考えられる。では、長谷川にとって小学校の教育経験はどのようなものであったのだろうか。在学時期が明確でないので確実ではないが、おそらくは等級制で学び、小学校卒業に至るまでにたび重なる試験を受け、教育内容を身に着けたことを証明する必要に迫られたはずである。実際、長谷川はそうした試験を受けていたようである。1938年9月28日の『読売新聞』に掲載された「師範教育五十年 思ひ出を語る長谷川氏」という記事で、長谷川は当時、議論されていた「受験地獄」を念頭に置いて「昔はもつとひどかったのです」としている。どのように「ひどかった」のか。長谷川の語りは以下のものであった(5)。

小学校からさうで、また学校の試験だけでなく、年に二回は県庁のお役人がみえ大試験があつた。(中略-引用者)試験といへば、前から夜も眠れず、当日はキレイな着物を親が

着せてくれるし、成績がいいと、本や墨などのご褒美を貰って喜んだものです。(中略-引用者)成績が悪いと落第はまだしも、級を下げられたりした。その当時の勉強といふものは、本を読んでたゞ暗記するの一点張り、実に莫迦げたことに精力を費やされたものです。

小学生のころから、試験のために夜も眠れず、しかも知識を習得する方法は児童の側が必死に暗記するしかなかった。そこに教員の側が教授法を工夫する契機はなかった。中内敏夫は日本の教育学について、学習の技術は議論されるが、教育の技術が議論されることはほとんどなかったと論じている(6)。まさに長谷川もそうした学習者の努力によってしか、学校階梯を上昇することのできない環境に置かれていた。そして、すでに述べたように長谷川の場合はそこから脱落することは士族としての地位を失う恐怖を伴っていた(7)。必死に努力を重ねることによって学校階梯を上昇した長谷川は小学校を終えた後に入学した愛知県尋常師範学校を1891年に卒業する。さらに訓導生活を挟んで1895年には高等師範学校文学科を卒業した(8)。士族から教員へという当時望ましいとされた転身を長谷川も遂げていたのである(9)。

長谷川の経歴は以上のものであった。ではこうした学校経験が長谷川の思想形成にどのような影響を及ぼしたと考えられるであろうか。一つ指摘できるのは「学歴主義」を一定程度は「内面化」していたであろうということである。またもう一点指摘しておきたいのは「教授学」への関心を喚起したであろうことである。先の回顧で述べ



ているように長谷川は学歴取得のために暗記という「実に莫迦げたこと」をしなくてはならなかった。そうした経験が学習の技術ではなく、教育の技術を問う「教授学」へと長谷川を向かわせたのではなかっただろうか。

今回は 1895 年に『大日本教育会雑誌』に掲載された「個性と教育」を分析し、長谷川の初期の「教授学」の一端を明らかにする。

注

(1)『第九版 人事興信録 下』1931、ハ32。

(2)天野郁夫『学歴の社会史』新潮社、1992、pp.47-50。

(3)「棚橋女史らに叙勲の御沙汰」『読売新聞』1938.4.29。

(4)仲新・石川松太郎編『創立六十年青山師範学校沿革史』第一書房、1984、p.395(復刻版=原著 1936)。

(5)「師範教育五十年 思ひ出を語る長谷川氏」『読売新聞』1938.9.28、5面。

(6)中内敏夫『教育評論の奨め』国土社、2005、pp.41-44。

(7)なお士族が支配階級からの「没落」を避けるために学歴を求め、階層再生産を進めようとしたという理解を批判する見解もある。詳しくは園田英弘、濱名篤、広田照幸『士族の歴史社会学的研究』名古屋大学出版会、1995を参照。

(8)仲新・石川松太郎編、前掲、pp.395-396。

(9)天野郁夫、前掲、p.48。

## 教育史研究のための大学アーカイブズガイド(22)

### — 女子美術大学歴史資料室 —

たなか さとこ  
田中 智子(早稲田大学大学史資料センター)

今号では女子美術大学歴史資料室を取り上げる。同資料室は同校の自校史教育の推進を図ることを目的に設置された機関である。以下、その基本情報および所蔵資料について述べていく。

#### (1) 基本情報

女子美術大学歴史資料室は、同大学の杉並キャンパス1号館1階にある。その歴史は比較的新しく、2007年、大村智理事長(2015年ノーベル医学・生理学賞受賞、現・名誉理事長)在任時に設置された。この頃から学内で自校史教育の機運が高まり、2011年に開始された基礎学習ゼミ(1年次必修)の中で自校史教育が行われるようになる。これに合わせて2012年5月に歴史資料室に歴史資料展示室が設けられるが、その開室にあたり、歴史資料室から以下の言葉が寄せられている。

女子美術大学歴史資料展示室では、建学の精神の継承、創立者・功労者の顕彰とともに、本学の自校史の調査・研究、資料保存、展示・公開などの活動を行います。

本展示室が学生・生徒をはじめ、学内外の利用者に自校史を伝える場となるよう努めます。<sup>1</sup>

上記の言葉に見られるように、歴史資料室は自校史教育の推進を中心に据えて業務を行っており、2015年には自校史テキスト『女

子美術大学・女子美術短期大学部の歴史』の編集も行っている<sup>2</sup>。

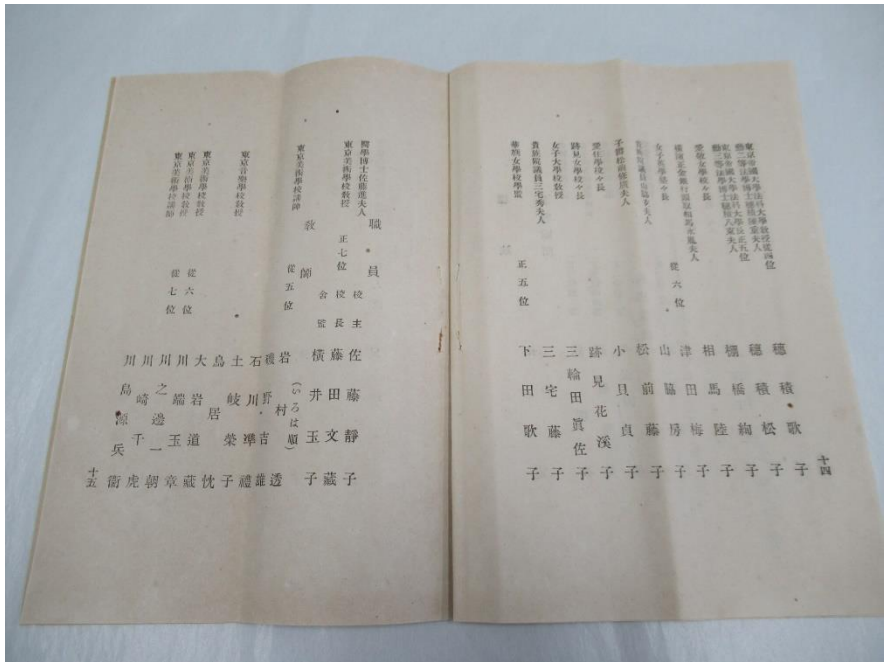
資料展示室【写真1】は、火曜・日曜・祝日、展示替え期間等を除く10時から17時まで開室しており、誰でも自由に見学することができる。展示の中心となっているのは、同大学の前身・私立女子美術学校の創立者である横井玉子と藤田文蔵、そして同校を再興させた佐藤志津の功績である。半期ごとに企画展も行われており、現在は収蔵資料展と女子美術大学美術館との連携で、染織コレクション展示も行われている(期間はいずれも2020年3月12日まで)。



【写真1】資料展示室(杉並キャンパス1号館1階)

## (2) 資料紹介

女子美術大学歴史資料室所蔵資料のうち、筆者が紹介したいのは以下の2点である。1点目は「女子美術学校規則」である。同大学およびその前身校は1908年、1945年、1956年と度重なる火災・戦災に遭っており、創立～戦前期を知ることができる資料はあまり現存していない。【写真2】は1902年頃のもので、1900年の創立時の様子を知ることのできる貴重な資料の一つである。中を開くと初期のカリキュラムや、津田梅子・下田歌子など当時評議員を務めていた著名な女性教育者の名前が記されている。



【写真2】「女子美術学校規則」

2点目は、校友会・同窓会の会報誌である。女子美術大学歴史資料室ホームページの「アーカイブ」(<https://joshibihistory.tumblr.com/magazine>)では、大正・昭和戦前期の校友会・同窓会の会報誌 18 冊を公開している【写真3】。ここでは当時の教職員・学生らの文芸作品や、学校の記事を電子ブック形式で読むことができる。この会報誌コレクションは、今後さらに追加される予定だそうなので、要注目である。



【写真4】女子美術大学歴史資料室HP「アーカイブ」

### (3) 資料へのアクセス方法

女子美術大学歴史資料室では上記の資料のほか、裁縫科・刺繍科の学生の課題作品や教科書などを収蔵しており、資料の閲覧業務も行っている。しかし、公開用目録を作成していないため、事前の問い合わせが必要となる。また、収蔵庫が相模原キャンパスにあるため、資料の出納に3週間ほどの期間を要する。閲覧を希望する場

合は、早めに下記連絡先に連絡をしてみるとよいだろう。

資料展示室については、校舎建て替えのため2021年秋より休館予定となっているため、その前にぜひ一度足を運んでいただきたい。

TEL:03-5340-4658

FAX:03-5340-4683

E-mail:heritage@venus.joshibi.jp

URL:<http://www.joshibi.net/history/>

(つづく)

- 1 女子美術大学歴史資料展示室リーフレット
- 2 『女子美術大学・女子美術短期大学部の歴史』発行にあたり  
(『女子美術大学・女子美術短期大学部の歴史』2015年、表紙裏)

## 『久徴館同窓会雑誌』の会員通信

こみやま みちお  
小宮山 道夫(広島大学)

「久徴館同窓会申合規則」によれば「本会ハ学友ノ交誼ヲ永遠ニ維持シ互ニ親睦ヲ厚久スルヲ以テ目的トス」(第一条)と定められている。そして「毎月一回久徴館同窓会雑誌ヲ発刊シ会員ノ起稿ニカハル論説並ニ会員ノ通信記録等ヲ登載シ会員ニ頒布スルモノトス」(第七条)と『久徴館同窓会雑誌』の刊行を規定し、「会員ハ論説及記事等凡テ本会ニ裨益アリト認ムルモノハ通信スベシ」(第八条)と情報の共有を推奨している。巻頭の論説も重要なながら、今回取り上げる会員通信も重要な扱いであることがわかる。後に「雑録」として掲載されることになる雑多な情報の中には最新の情報が会員から寄せられている。第一号の記事を以下に抜き出してみよう。

### 会員通信

成立学舎ノ景況 高田銀二郎君

成立学舎ハ神田駿河台ニアリテ生徒八百余名ナリ教員ニハ舎長文学士中原貞七氏ヲ始メダブリュー、デー、コックス博言学士イーストレーキ、ハイヨ夫人理学士酒井佐保文学士棚橋一郎工学士稲垣銓平同森山益夫理学士高島勝四郎氏等三十余名ニシテ教授方法整頓シテ教員ノ親切ナル多ク見サル処ナリ学科ハ本科予科ニ別チ英語学数学物理学化学動植物学ノ課目トナシ専ラ諸官立学校受験ニ恰好ナル教授ヲナシ四谷同分校ニハ特ニ農林学校受験ノ科ヲ置キ又女子部ニハ女子相応ノ学科ヲ設ク(女子部ノコトハ余ハ之ヲ知ラス)而シテ其月謝ハ一ヶ月金一円三十銭宛(漢学ヲ受ケサル者ハ内二十銭ヲ省ク)ナリ之ニ入学シテ三ヶ年間ノ業ヲ卒スレハ大抵高等中学校等各官立学校ノ受験ニ相応ナル学カトナルニ至ル今夫レ

都下私立学校ノ多キ数十学校ニ及フ而シテ其規則ノ完全ニシテ教授ノ方法宜シキヲ得タルモノ幾許カアル我成立学舎ノ如キ其類ノ希ナル良学校ト云フベシ以上概略ヲ陳シテ之ヲ報ス其詳細ハ異日ヲ待チ報道スル所アラントス

#### 能州学友会 館与吉君

同会長中橋和之君ハ今度大坂鉄道会社幹事トナリ彼地ニ赴カルハヲ以テ同会員一同本月一日本郷千代本樓ニ於テ同君ノ送別会ヲ開キタリ宴始ルニ当リ杉中利平次君開会ノ趣旨ヲ陳ヘ次ニ中橋君起テ留別ノ辞併ニ将来盛大ニナスヘキヲ希望スル旨ヲ演説セラレタリ其他北濱三十郎君等交々演説アリテ君カ本会ノ為メニ尽力セラレシヲ賞賛シ或ハ君カ離別ヲ悲ム杯ニテ后ハ酒杯献酬ノ間互ニ胸襟ヲ開キ懇談親話シ飲デ濫セス酔テ狂セス宴ニ盛大ナル送別会ナリキ又杉中君カ会長ノ後任ヲ承諾セラレタリ

#### 英吉利法律学校ノ景況 越田小三郎君

余ハ現ニ同学校ニ在学セリ因テ同校景況ノ一斑ヲ記シテ会員諸君ニ報道スル亦タ無用ニアラスト信ス抑モ本校ハ東京五法律学校ノ一ナリ而シテ最モ最後ニ開設シテ最モ隆盛ヲ極ム之ヲ致ス所以ノ者ハ亦タ偶然ニアラサルベシ本校講師三十余名皆法学博士法学士ニシテ或ハ教授ノ職ニアリ専ラ法理ヲ研究スルモノアリ或ハ判官代言士トナリ実地応用ヲ務ムルモノアリ是等各自ノ得ル處ヲ以テ教導スルモノサレハ他ノ僅々二三名ノ教授ニ從ヒ修業スルト実地ノ利益ニ至リテハ亦タ同日ノ論ニアラサルヘシ本校ニ原書科ヲ置キ原語ヲ以テ之ヲ授ケ法律原本ヲ翻刻シ「テキストブック」ト名ケ廉価ヲ以テ生徒ニ頒チ大ニ其利便ヲ謀ル又書籍閲覧室アリ本校備置ノ書籍及ヒ高橋法律文庫(故法学士高橋一勝氏紀念ノ為メ設置セシモノ)ノ書籍ヲ併セテ生徒ニ閲覧セシムル杯ノ設ケアリ月謝ハ金壹円宛ニ



シテ三ヶ年ヲ以テ卒業スルノ組織トナス今本学年試験問題アレハ左ニ掲ク

第一科第一年級契約法問題

- 一 左ノ語ヲ簡單明瞭ニ説述スヘシ  
陳述(乙)条件 (丙)請合
- 二 衡平法ニ於テ契約上ノ權利ヲ讓渡スニハ何カナル条件ヲ要スルヤ
- 三 左ノ語ヲ簡單明瞭ニ説述スヘシ  
(甲)無効 (乙)取消シ得ヘキ (丙)履行セシム可ラズ

同 私犯法問題

- 一 (甲)共役人トハ何ゾ  
(乙)共役人相互ノ私犯ニ対シ雇主其責ニ任セサルノ理由如何
- 二 復讐誹議ニ由テ他人ニ損害ヲ蒙ラシメタルトキ誹議者本人ノ独り其責ニ任スヘキ場合如何
- 三 不法起訴犯ヲ以テ責任ヲ負ハシムルニハ原告ハ如何ナル事柄ヲ証明スヘキヤ
- 四 死去結婚及ヒ身代限ノ私犯ノ責任上ニ及ホスヘキ効果如何
- 五 アーモリー対デラミリーノ訴件ノ事実及ヒ判決ノ理由ヲ説明スベシ(以下次号)

若者達の進学先となる学校の情報には、教授陣の情報のもとより受験料や月謝などの経費情報を含む詳細で身近な教育環境情報が報じられている。能登の学友会会長の就職や後任人為の情報もまた加越能三州の若者にとって重要な情報となったことだろう。このような会員相互の有益な情報交換により加越能三州のいわゆる「青年」たちは絆を強めていったのだろう。(続く)

## 体験的文献紹介(8)

### — 世界史の学習と新渡戸稲造研究 —

かんべ やすみつ  
神辺 靖光(ニューズレター同人)

1957年4月、東京文化高校教諭になって2年目、私は新2年生のクラス担任になった。前年の1年生の持ち上がりである。当時、高校社会科は一年生で日本史と地理、2年生で世界史、3年生で倫理社会を履修することになっていた。私は世界史を担当することになった。制度上免許状は社会科となっている。実際は出身大学の学科によって日本史担当、世界史担当を区別するが、当校は世界史担当の専門教師がいなかったからと命じられるままに世界史を担当することになった。私が学んだ戦時中の旧制中学校は1年次日本史と地理、2年次東洋史と地理、3年次西洋史、4年次5年次再び日本史という配列であったが、4年次は通年学徒勤労動員で実質3年次までしか授業がなかった。それも臨時の勤労奉仕活動のため、3年次の西洋史は授業が少なく、ギリシャローマから始ってルネッサンス宗教革命で終わってしまった。要するに西洋史の教養はないに等しかった。しかし戦後にでた西洋史関係の書物、例えばナポレオン戦争、アメリカ独立、普仏戦争、英仏の東洋侵略等はそのに関する文学や映画に接するたびに関心をもっていたので西洋史や近代東洋史は特に学びたかった。それで進んで世界史の担当を引き受け、一年間この学習に没頭することにした。前年度と同じように学校勤務中は漢文素読の稽古にあて、帰宅後の5時30分から8時までを世界

史の学習、授業準備に当てた。日曜日は次の一週間分の授業の実演をやったものである。

教科書は同じく教育図書の『新制世界史』で著者は原随園であった。日本史の小葉田淳も世界史の原随園も京都大学教授である。当時高校の教員仲間では“京都大学の歴史”と言って評価が高かった。教科書の巻末に年表や歴史地図、基本資料の抜粋が載っていたが、平凡社の『世界歴史事典』『世界歴史大系』を揃えて毎日楽しく勉強した。一週間、同じ授業を4回するのだから週末にはその部分をすっかり覚えて満悦だった。

河野先生宅での漢文素読も5年目に入り、「孟子」と「史記」の読み方も堂に入ってきた。漢文特有のリズム感で読めるのである。早稲田大学院漢文授業で毎回出される白文も苦心すれば読めるようになり、東洋文化研究所の「世説新語」も仲間同志で自分の和文解釈を競い合い楽しいものになった。

教育史研究では新しい課題が浮上した。私が勤務する東京文化高校の発端は1929年、本郷区に開校した女子経済専門学校だと前に述べたが、さらに開校の<sup>いきさつ</sup>経緯を述べるとその淵源は1920(大正9)年の文化生活研究会に遡る。同年、北海道帝国大学教授であった森本厚吉は親友の作家・有島武郎と大正デモクラシーの提唱者・東大教授・吉野作造と語り合って文化生活研究会をつくった。明治以来、わが国は西洋の近代学問芸術を取り入れて経済文化が急速に進んだ。しかしその経済文化の恩恵を享受しているのは少数の金持ちにすぎない。これからはもっと多くの人々が経済的に豊かに

なり、文化的な生活を送らねばならないが、人々が豊かな経済生活とは何か、文化的な生活とは何かという事を知らなければならない。文化生活研究会はこうした啓蒙活動の団体である。東京銀座の警醒社書店を本部に第一線で活躍中の大学教授、評論家を同人にして機関誌『文化生活研究』を発刊した。次いで理論ばかりだけでは駄目だ、衣食住全般にわたって文化生活ができるよう多くの人に訴えねばならぬとして月刊雑誌『文化生活』を発行した。一般大衆を相手にするようなことを言っているが、記事からみて都会に住む中流生活者をターゲットにしていることは明らかである。森本は文化生活は住居の改善からだとして旧来の長屋風労働者住宅から欧米のサラリーマン用アパートメントに変えようとしてその実現のために財団法人文化普及会を起した。その翌年即ち1923(大正12)年9月、関東大震災が惹起し、東京市街は壊滅した。市内住居を改善する絶好の機会が訪れた。森本の住宅改革運動を知っていた東京市は森本の運動を応援した。その甲斐あって森本は1925年、本郷元町に文化アパートメントを竣工開館した。耐震コンクリート建、最新式の設備を整えた文化アパートメントは都市住宅のモデルとされた。しかしこれを機能させるには設備を使いこなす主婦が居なくてはならぬし、未来の文化生活を画ける女性がいなければならぬ。こうして森本は新時代の女性を養成する女子経済専門学校設置を構想したのである。

森本厚吉は札幌農学校の出身で新渡戸稲造の教えを受けた。新渡戸に私淑し、新渡戸が学んだ米国のジョンスホプキンス大学に留学し帰国して北海道帝国大学の教授になった。女子経済専門学校

を構想した27年、新渡戸は国際連盟事務局次長を辞任し、日本に帰国した時であった。森本は早速、新渡戸を尋ね女子経済専門学校の校長就任を懇請した。新渡戸はこれを快諾したので28(昭和3)年4月、女子経済専門学校は新渡戸を校長として文化アパートメント内で開校した。

31年、東京府豊多摩郡中野町にあった私立成美高等女学校を併合して、これを附属高等女学校とし、女子専門学校も中野区に移転した。33年10月、新渡戸稲造は太平洋会議のためカナダに出張中客死、森本厚吉は50年1月、戦後の学制改革の最中、脳溢血で死亡したので厚吉の妻静子が学長・校長になって東京文化短期大学、同高等学校、同中学校に改組し、さらに小学校、幼稚園を併設して再生がなった。

森本静子校長は高等学校の朝礼訓話でよく新渡戸稲造、森本厚吉の言行について語った。私は新渡戸稲造について関心を抱くようになった。学校図書館には新渡戸稲造のコーナーがあって、彼の著書や伝記が揃っていた。私は勤務の合間に図書館で新渡戸関係の図書を読みふけるようになり、新渡戸研究に傾いていった。

代表的著作には『武士道(英文)』のほか、『帰雁の蘆』『随想録』『ファウスト物語』『修養』『世渡りの道』『随感録』『折にふれ』『一日一言』『人生雑感』『自警録』『婦人に勧めて』『一人の女』『東西相触れて』『偉人群像』『内観外望』『西洋の事情と思想』『人生読本』等、伝記には石井満の『新渡戸稲造伝』があり、一高校長時代に新渡戸を慕った門下生が編集した『新渡戸博士追憶集』は弟

子からみた師の追憶のみならず新渡戸に関する貴重な資料集にもなっている。

私はここでの読書により『教育家としての新渡戸稲造』研究が一つのテーマになった。

士 師 歴		新 渡 戸 稲 造	
著名大四生先		世 渡 りの 道	
<p><b>自 警 録</b></p> <p>一 日 一 言</p> <p>定価 五拾圓          定価 五拾圓          定価 五拾圓</p>	<p><b>世 渡 りの 道</b></p> <p>定価 五拾圓          定価 五拾圓          定価 五拾圓</p>	<p><b>修 養</b></p> <p>定価 五拾圓          定価 五拾圓          定価 五拾圓</p>	<p>新渡戸稲造の著書は、人傑を著し、世に遺したるもの多し。其の著書は、世に遺したるもの多し。其の著書は、世に遺したるもの多し。</p>

新渡戸稲造著作の広告（実業の日本社）

『月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』  
刊行要項(2015年6月15日現在)

- 1.(目的)広い意味で「現代の大学問題へのアプローチを視野に入れた研究」を各執筆者が互いに交流し、研究を進展させていくことを目的にこのニューズレターを発行します。
- 2.(記事のテーマ)記事は、広い意味で現代の大学問題へのアプローチを視野に入れた研究であれば、高等教育史だけでなく中等教育史や初等教育史なども含めた幅広いテーマを募集します。
- 3.(刊行頻度・期間)研究進展のペースメーカーとするため毎月刊行し、最低限3年間は継続します。
- 4.(編集委員会・編集世話人)発行主体は編集委員会とし、編集責任者として編集世話人を設け、当面は富岡勝と谷本宗生が担当します。編集委員は、執筆者の中から数名程度募集します。
- 5.(執筆者)執筆者は、最低限1年間参加し、原則として毎月執筆してください。ご希望の方は、編集世話人までご連絡ください。執筆者は、刊行経費として毎年600円を負担してください。
- 6.(記事の責任)記事の内容については、執筆者で責任をもって執筆してください。参考文献・引用文献の出典を明らかにするなどの研究上の基本ルールはもちろん守ってください。また、ごまかれに、編集世話人の判断によって記事の掲載を見合わせる場合があります。
- 7.(記事の種類・分量)記事の種類は、論考、研究上のアイデア、史資料の紹介、先行研究の検討など研究に関するものでしたら何でも結構です。記事1本分の分量は、A5サイズ2枚～4枚ぐらいを目安とします。
- 8.毎月の刊行をスムーズに行うため、レイアウトなどは簡素なものにとどめます。世話人によるニューズレターの印刷は、国会図書館献本用などごく少数にとどめます。執筆者にはニューズレターのPDFファイルをメールでお送りしますので、各執筆者で必要部数をプリンターで印刷するなどして、まわりの方に献本してください。
- 9.ニューズレターの内容は、下記のホームページで公開します。  
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/komiyama/gen-dai-kyou-ken/>
- 10.ニューズレターを中心とした研究交流をしていきますが、年に1回程度は、必要に応じて執筆者の交流会を開催します。
- 11.以上の内容を変更したときは、この要項を改訂していきます。

以上

私の所属する大東文化大学の『学生手帳』(2019年)所収には、「大学生活について」という項目に、今時らしい学生としての心構えである「国民年金保険料納付猶予について」(41~42頁)や「研究倫理ガイドライン」(37~39頁)、そして「SNS(Social Networking Service)」(40頁)などが挙げられ、簡潔明瞭に分かりやすく注意点などが記されています。とくに、若い現代学生らにとってとても身近であろう「SNS」については、「法令遵守」「機密情報の保護」「自己のプライバシーの保護」「情報発信の責任」「他者の尊重」という構成でもってポイントが明記されています。以下、なかでも興味深い「情報発信の責任」と「他者の尊重」についての記述を、ご紹介いたします。

### 情報発信の責任

あなたが発信した情報の責任はあなたにあります。一度発信した情報はネットワーク上に広まり削除するのは非常に困難です。これらをよく考えた上で情報を発信しましょう。

### 他者の尊重

日常のコミュニケーションの時と同様に、他者を尊重する姿勢を忘れないようにしましょう。友達や周囲の人が写り込んでいる写真をSNSにアップするときには、基本的に本人の許可が必要です。

また、自分と異なる意見、考えや価値観を互いに認め合うことを心がけましょう。他者を中傷・侮辱する内容、他者のプライバシーにかかわる内容、公序良俗に反した内容を発信してはいけません。また、政治、宗教などにかかわる内容を発信する際には十分に配慮しましょう。

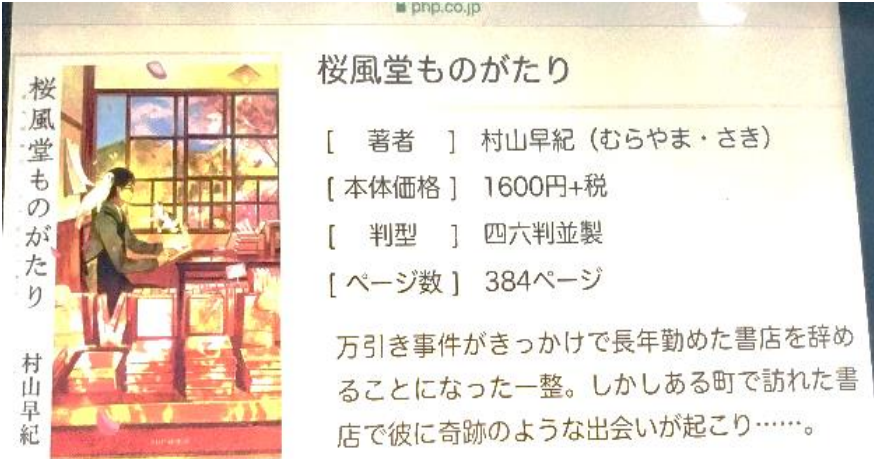
個人の思想・信条の自由などを尊重しながらも、全世界的に、不特定かつ予想外に拡散されるおそれのあるSNS上での記述表現については、やはり相応の配慮や注意をもって臨むことが大事ではないかと私も感じます。そんななか、都内にあるT大学の大学院所属教員がSNS上にて、「特定個人及び特定の国やその国の人々に関する不適切な書き込み」を複数行った事実について、大学の所属機関長が大学HP上で大学では「国籍はもとより、あらゆる形態の差別や不寛容を許さず、すべての人に開かれた組織であることを保障いたします。構成員から、こうした書き込みがなされたことをたいへん遺憾に思い、またそれにより不快に感じられた皆様に深くお詫び申し上げます」(2019年11月)という声明を出し、社会的に大きなニュースとして話題となりました。まさに、同上に挙げられてあった「情報発信の責任」や「他者の尊重」といった点はキーといえるのでしょう。(谷本)



村山早紀『桜風堂ものがたり』(PHP、2016年。文庫版は上・下巻で2019年)を読んだ。しばらく前に電子書籍で購入していたが、最近ようやく読み始めたところ、他の仕事をほかって読みふけてしまった。わたしは、古い友人とときどき大型書店で待ち合わせして雑談をしながら書棚をめぐり、昼食をとる「ブックランチ」を続けている。書店は重要な場だと思う。全国の書籍売上げが落ちている上にコンビニやネット販売などに押され、町の書店が減るようになってから久しい。この本では、書店員がどのような気持ちで棚をつくり、本の魅力をお客さんに伝えようとしているのかがいきいきと描かれている。今回は電子書籍で購入したが、書店で買い直して学生にも紹介してみたいと思う。

著者は、『砂漠の歌姫』、「シェラひめのぼうけん」シリーズ、「風の丘のルルー」シリーズ、「コンビニたそがれ堂」シリーズ、「竜宮ホテル」シリーズ、「花咲家」シリーズなど数多くのファンタジー小説で知られているが、本書は実在の書店員との交流が大きなヒントになっているという。ジャンルがファンタジーであろうとなかろうと、登場人物の心情や行動をリアルに描写する著者の作品は読んでいて面白いと思う。

研究論文は想像で書いてはいけないが、このリアルに伝わる描写力には学びたいと思う。(富岡)



■ php.co.jp

桜風堂ものがたり

[ 著者 ] 村山早紀 (むらやま・さき)

[ 本体価格 ] 1600円+税

[ 判型 ] 四六判並製

[ ページ数 ] 384ページ

万引き事件がきっかけで長年勤めた書店を辞めることになった一整。しかしある町で訪れた書店で彼に奇跡のような出会いが起こり……。

PHP 出版のホームページより

---

## 会員消息

---

私が住んでいる、東京都内の多摩周辺地域にある公立保育園での給食費負担(月額)についての記事「多摩地域各市の公立保育園 給食費負担に大きな差 武蔵野、小金井0円、町田は6200円」『東京新聞』2019年11月5日、20面(多摩武蔵野)を読んで、利用者負担が月額0円から6200円までと、地域差があまりに激しいことに正直驚きました。また私立保育園の一部では、月額6千円などを徴収するケースが多い・ともありました。本年10月から、公立保育園で月額給食費(主食・副食)6千円を徴収している多摩市では、市長が「給食費より待機児童対策や保育士の処遇改善に投資したい」と強調している模様です。同じく月額6千円を徴収している稲城市では、当初は月額7500円を予定していましたが、反発の声に影響されて結局6千円とし、私立に通う子どもとの公平性を意識したと、担当者は語っています。八王子市や府中市などの都内13市では、パンやご飯などの主食費の行政補助を本年10月以降も継続し、主食費の利用者負担は月額0円にとどめるいっぽうで、おかずやおやつなどの副食費は月額4500円の利用者負担として徴収しています。以前は、保育料に含めて副食費を徴収していたよし。立川市では、副食費分の千円ほどを月額利用者負担として徴収しています。武蔵野市と小金井市では、給食費も保育料の一部であるという基本的な考えかたから、市側の負担でもって利用者負担を0円としているそうです。そして、多摩地域のなかでも町田市は、利用者負担として最高の月額6200円を徴収し、市の厳しい財政事情を鑑みてご理解いただきたいとしています。(谷本)

11月16日(土)に関西教育学会第71回大会(於:関西学院大学)に参加しました。保育・幼児教育から教育課程・方法論まで幅広い発表を拝聴しました。

また、関西教育学会編集委員会特別企画の「研究論文・研究ノート・実践研究報告の書き方講座」にも参加しました。先行研究を単なる情報として捉えず、敬意をはらって接することなど、論文執筆の技術や心構えを再確認しました。来年度の投稿を目指して、準備していきたいと思います。(八田)

言ったそばから構想を転換することになりました。前は「未完の教授学者」としての長谷川乙彦の第2回は長谷川の最初期の論文「個性と教育」を分析すると書きましたが、学説史である以上に、人物史・思想史としての側面が強いので、長谷川の生い立ちから説き起こす必要がありました。……ということで「個性と教育」の分析は次回になります。

近況報告欄なのにあとがき、ないし言い訳ばかりなのでたまには近況報告を。先日(11月30日)に学会で千葉の蘇我に行きました。直前にとったビジネスホテルに温泉がつい

ているという「うれしい誤算」があったのですが、そんな話をしたところ「蘇我にビジネスホテルなんてあるんだね」「思ったより発展しているね」という話になりました。たしかに同感なのですが、同時に学会や調査で全国津々浦々に行くようになってから感じるようになった「既視感」をより強く意識させられる会話でした。どの町に行っても一つくらいはビジネスホテルがあって、自分がどこにいるのかわからないくらい、特徴のない町並みが広がっている……。もともと、以前、学会で行った佐渡には当てはまらない話ですが。(長谷川)

昨年は新企画のレターコロキウムに刺激を受け、長らく放置していた学生自治会研究に再び着手しました。今年はそれを形にできるよう頑張ろう!と誓う2020年の元旦でした。一年の計は元旦にあり。(田中智子)

2019年の初体験4つ。日韓関係が悪化する最中、日本語を学んでいる韓国人留学生向けの短期研修を実施。日本語のできないエジプト人留学生の短期研修をつたない英語で実施。日本語を学ぶ東南アジアの高校生の広島滞在を支援。日本の近現代教育史を学ぶ中国人ツアーに講義を提供。何歳になっても初体験は多いです。2020年はどのような初体験が待っているか、楽しみにしています。(小宮山)

「PDCA」は教育界で流行し初めてからまだ10年ほどしか経っていないようです。誰も反対しないような言葉のなかに、落とし穴があったりするものかもしれません。

京都大学吉田寮に関する写真ドキュメントが草思社から刊行されました。『京大吉田寮』(平林克己:写真 宮西建礼・岡田裕子:文)です。以下、草思社HPの紹介文より。

「吉田寮は、京都大学の学生寄宿舎であり、1913年に建設された日本最古の学生寮です。本書は、その寮の関係者から、寮のことを記録してほしいという依頼を受けた写真家の平林克己さんが撮影した写真をもとに構成されています。さらに、実際に吉田寮に暮らした宮西建礼氏、岡田裕子氏による、寮での暮らしや歴史、自治の在り方等についての解説テキストも記載されています。実際の寮の姿、寮生の生活がどのようなものなのかを記録した、フォトドキュメンタリーとも呼べる本書ですが、書籍の制作にあたり、撮影から使用写真、テキストまで、吉田寮自治会の了解を得ながら進行了ました」。

また、私が事務局を担当している「21世紀に吉田寮を活かす元寮生の会」で、京都大学や吉田寮をめぐる様々な話題について、市民のみなさんとじっくり話し合う公開学習会を開催しています。これまで第1回「最近20年間の大学自治」(2019年10月5日)と第2回「『吉田寮百年物語』を読む(その1)」(2019年11月17日)を実施してきました。きたる2020年1月18日には京都大学吉田寮について景観と結びつけて考えるというテーマです。詳細は以下の通りです

連続公開学習会「吉田寮と京大」学

第3回:「地域の中の吉田寮—景観と地域らしさから考える」

日時 2020年1月18日(土) 15:15~16:45(15:00開場)

会場 京都大学楽友会館 1階会議室 (東山近衛東入ル。市バス「近衛通」下車  
すぐ。京阪「神宮丸太町」下車徒歩約20分)

会費 無料

話題提供 亀岡哲也さん(元寮生・滋賀地方自治研究センター副理事長)

ゲスト 本間智希さん(建築リサーチ集団「RAD」)

遠いかと思いますが、もしご関心ありましたらいらしてください。大歓迎いたします。

(富岡)

本ニューズレターPDFファイルをダウンロードして印刷される際、Adobe Reader などのソフトの「小冊子印刷」機能を利用してA4サイズ両面刷りに設定すればA5サイズの  
小冊子ができます。